



中学1年生の5月から不登校になっていた、千種。ある晩、部屋に不思議な女性が現れ、自分は公園にあるクスノキの精霊だと名乗ります。そして、これから5回、千種の元を訪れるものたちの話を聞けば、きっと何かが変わると話し、消えてしまいました。残されていたのは1枚の葉。半信半疑の千種でしたが、次の日、第1の訪問者のカラスがやってきました。身の上話を聞いた千種は、次の訪問を楽しみに待

県立図書館



岩淵優衣さん

人生の再起は何度でも

つようになります。期待通り、次の日には猫が現れま

ながら読むことができま

す。たくさん可能性があるのだと気持ち、それを胸にとどめていようと思えます。主人公と同世代の方にも大人の方にもお薦めしたい作品です。(借成社、1728円)

「千の種のわたしへ 不思議な訪問者」
やなぎはしこり著



5回目の訪問が終わり、これで千種は変われると思いきや、生活の張り合いにならなっていた訪問者がなくなり自堕落な生活に戻ってしま

います。そんな千種に、小さなぎっかけから変化が訪れるのですが……。

県内の公共図書館や大学図書館の司書の方々へ、お薦めの本を紹介してもらいます。次回は22日付、水戸市立中央図書館担当です。



8月の初め、水戸市では毎年恒例の黄門まつりが開催されます。祭りの会場となる上市では、水戸中央郵便局前から大町の国道を歩行者天国にして、山車やお神輿が練り歩きます。その祭り会場に向かう水戸駅北口から郵便局までの道を「銀杏坂」と呼びます。1945(昭和20)年の水戸大空襲を生き抜いたイチヨウが立つ、水戸で一番有名な坂ですが、「水戸の坂道、水辺の風景」によると、実は、今とは別の所が銀杏坂

水戸市立中央図書館



柳橋敬子さん

「坂」から見える暮らし

であったとか。他にも「口マンス坂」「太郎坂」など、水戸の上市周辺の台地に点

自分が毎日通学していた坂も紹介されており、毎朝自転車ですりかきながら上ったのを思い出しました。

水戸市立中央図書館では子ども向けのおはなし会や、懐かしい名作映画の上映会を毎月開催しています。どなたでも参加できますので、ぜひお越しください。また本館2階には読書や学習ができる席(約80席)を設けた読書室、辞典を使った調べものや水戸市に関する郷土資料が利用できる参考資料室があります。平日は月曜から木曜日、土日祝日も午後8時まで開館し、休館日は毎週金曜日、第一木曜日です。冷房も効いておりです。どうぞ図書館で「読書の夏」をお楽しみください。



「水戸の坂道、水辺の風景」
水戸まぢつくりの会著

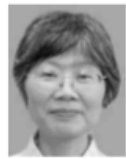
この冊子を制作した水戸まぢつくりの会は「水戸の橋ものがたり」も発行しています。どちらも水戸のまぢなかを再発見できる本としてお薦めです。(水戸まぢつくりの会、700円)

平日は月曜から木曜日、土日祝日も午後8時まで開館し、休館日は毎週金曜日、第一木曜日です。冷房も効いておりです。どうぞ図書館で「読書の夏」をお楽しみください。



笑って暑さを吹き飛ばせましょう。お薦めする本は、十代目柳家小三治(本名・郡山剛蔵)の「ま・く・ら」です。ま・く・ら(枕)は、落語に入るための自己紹介や短い小噺です。「ま・く・ら」には、趣味のバイク・オーディオ・クラシック音楽・俳句から家族・断家・芸能人・ホームレスまで幅広い話が17話取められています。

日立市立記念図書館



平野裕美さん

笑って暑さを吹き飛ばせ

け御飯」は、卵が貴重品だった時代に家族7人で1個の卵を分けて食べた話と小

暮らしている一家の話なのですが、なぜか笑いがこみ上げてきます。

日立市立記念図書館は、J・R日立駅中央口から徒歩5分の日立シビックセンター1階にあります。7月1日から9月2日まで、「としよかんポイント大作戦」を記念図書館・多賀図書館・十王図書館・南部図書館の4図書館で実施されています。(おおむね3歳から中学3年生を対象)ポイントカードを6冊集めた方に記念品を差し上げます。おはなし会やテーマ本の展示・貸出を行っていますのでご利用ください。

「ま・く・ら」

柳家小三治著



方を愛して、面白く世の中を渡ってゆきたいものです。

(次回は8月5日付、古河市三和図書館担当です)



物語の主人公・リクエンスは紐結びの魔道師です。紐結びの魔法とは、色や太さ、種類の違う紐をさまさまに結んで、幸運を呼んだり相手を迷わせたります魔法です。例えば、大騒ぎの呪文をかけて結んだ紐に触れると羊でも牛でも飛び上がって大騒ぎになり、両足のスボンの裾に呪文をかけて結んだリボンを着ければ転倒防止になる、という具合で、リクエンスはこれを長年かけて試行錯誤の末に編み出しました。

古河市三和図書館

国井和枝さん



旅先で知る人生の喜び

この物語の舞台であるオーストラリアでは魔道師は40歳を超えたらういす長命で、リクエンスも350年以上生きて、生



「紐結びの魔道師」

乾石智子著

きるこそそのものに飽きてきた頃、リクエンスは相棒の残した書き付けを本にするため旅に出ます。旅に出た先で今まで見たことも聞いたこともない生き物や出来事に遭遇し、自分の倍も長く生きている魔道師と出会い、もう一度日々を生きし、喜びを見つけていくとします。

この本は「オーストラリアの魔道師」というシリーズの中の1冊です。それぞれ独立した物語でありながら、各話の人物や出来事がちりちりと出てきたりして、

それがまた読む楽しさを感じてくれます。どの1冊から読んでも楽しめますが、私のお薦めはこの「紐結びの魔道師」です。

「闇と光を同時に見る」のが魔道師、その旅路で何が見つかるか、一緒にたどってみませんか？（東京創元社・創元推理文庫、821円）

三和図書館では、夏休み期間中も課題図書貸し出しをしています。また、「夏休み特集」として夏休みの宿題に役立つような本をそろえています。ぜひ来館ください。

（今回は12日付、龍ヶ崎市立中央図書館担当です）



オボツサムのホイホイが友達のカムカムを訪ね「散歩に行こう」と誘います。ホイホイは散歩の良さを熱心に語りますが、一度も散歩をしたことがないカムカムは家でのおんぶりすることがいかに大事かを説き、ななとが断ろうとします。価値観の違う二人が出した結論は「ひと休みしてから散歩に行こう」でした。お茶を飲んで窓の外を眺めるおんぶりくつろいだ後、いよいよ散歩へ出発します。ようやく歩き出したま

龍ヶ崎市立中央図書館

山田麻美さん



価値観違う2人の友情

の、すぐに寝れてしまいがささってあげたり、お助けを求めカムカム。しでこを冷やしてあげたりとつかり者のホイホイはおな

「ホイホイとカムカム

たいへんなさんぽ」

マジヨリ・ワインマン・シャーロット著



おかげでカムカムの中の意識が変わり始めるのですが、同時にホイホイにも眼界がきていました。ホイホイは座り込んで言います。「ほくほくさんぽ、あきらめないし、しんせつだ。それはほんとだよ。でももうため。これがせいじっはいな」ホイホイ、頑張りすぎちゃったんだね。さあどうするカムカム？

2人のユニークな人柄もさることながら、パーパラ・クーニーの挿絵の素晴らしさがこの本の魅力でもあります。素朴でかわいらし

いに愛嬌たっぷり。細やかに描かれた2人の表情も見逃せません。そして、この本には飾り気のない優しさがたくさんつまっています。苦手なことに挑戦したり、苦しいときに甘えたり。それができるのは、隣で一緒に歩いてくれる誰かがいるから。たとえ価値観が違っても、分かり合えることがきっとあるはず。大切なことを、気付けさせてくれるすてきな一冊です。（ほるが出版、1512円）

龍ヶ崎市立中央図書館では、大人も子供も楽しめるイベントや、おはなし会を随時行っています。（今回は19日付、潮来市立図書館担当です）



音楽や本を読んで青春時代を思い出すというのはよくあることですね。私にとって青春の全てがこの本です。1990年代中盤、オシャレな服を着てカッコよくなりたいたい！願望から週末は東京・原宿のファッション行き、ストリートファッション系ブランドの店をハシゴしました。今では日本を代表するブランドになった高橋盾氏率いるアンダーカバーはじめ、裏原宿系といわれたブランドは現在も若い世代に支持されています

潮来市立図書館

船見康之さん



80〜90年代の青春描く

す。そんな若者の心を一心に集め、当時の私がまるで信者のように崇拝していた

「丘の上のパンク」

川勝正幸著



の「藤原ヒロシ」です。彼が存在しました。当時はスマホもなく、流行のネタを仕入れるために数多くの雑誌を読んでいた。そこに載るような人たちが、どれほど田舎の若者の手本となっていたのか。

その中のいくつかの雑誌で、彼と高橋盾氏やNIG O氏といったデザイナーによる連載がありました。そこに掲載される服や小物、音楽といった情報が最先端のカルチャーであり、日本だけでなく、世界的にも影響を与えていたといっても

過言ではありません。この本は、そんな藤原ヒロシ氏の半生を書いたものですが、80年代や90年代のカルチャーシーンを彼と交流のある多くの著名人とのインタビューで詳細に語っています。今では当たり前になっているファッションや音楽にも、実は彼が手掛けたものが多くあり、どれほどの影響があったのかも分かることでしょう。

私自身は既に若者とは呼べない年齢になりましたが、この本を手にするたびに心と気分だけはいつでも10代に戻れるような気がします。（小学館、30224円）（今回は26日付、ひたちなか市立中央図書館担当）



映像化されたこともある作品なので、ご存じの方も多いかと思います。「図書館戦争」「図書館内乱」「図書館危機」「図書館革命」の4冊からなるシリーズの1冊目です。映画では水戸市の図書館がロケ地になったことでも有名ですね。

図書館が舞台であり、かつ「図書館の自由に関する宣言」がテーマになっている小説です。図書館にはよく行くという人でも、この宣言については知らない人が多いと思います。大抵の



ひたちなか市立中央図書館

出沼孔美子

主人公手に汗握り応援

図書館には文言が掲げられていると思えますので、ぜひ確認してみてください。小説ですから、実際の図書館の現実とは違っています。全く堅苦しくない、楽しい娯楽小説です。その現実から懸け離れた設定の中でも、図書館員が実際に感じていることも書かれていて、思わずうなずきながら読んでしまいます。



「図書館戦争」
有川浩著

館の現実とは違っています。全く堅苦しくない、楽しい娯楽小説です。その現実から懸け離れた設定の中でも、図書館員が実際に感じていることも書かれていて、思わずうなずきながら読んでしまいます。物々しいタイトルですが、中心に描かれているのは主人公の人間関係と心の成長です。特に、上司である教官との関係がじわじわと着実に変化していく様子は、思わず手に汗を握りながら応援せざるを得ません。ぜひ映画との表現の違いも確認しながら読んでください。

ひたちなか市立中央図書館は、勝田駅東口から徒歩で約5分。お気軽にお立ち寄りください。大人向けと子供向けの図書室が完全に分かれており、小さなお子さま連れでも児童室で気兼ねなく過ごせます。毎月定例のおはなし会や映画会、その他講座や講演会などを開催しています。HP: <https://www.jlib.hitao.ninaka-libraki.jp/>で確認ください。

(今回は9月2日付、日立市立多賀図書館担当です)



私がお薦めするのは、今から100年前、日立鉾山の煙害問題を、世界一高い大煙突を建てることによって見事に解決した実話を基にした小説、新田次郎の「ある町の高い煙突」です。

煙害に苦しむ四間村の代表、関根三郎と鉾山所係の加屋淳平、若い2人の友情と人間像がとても魅力的です。また、三郎と千穂(淳平の妹、お結核で死亡)との恋はせつなく胸が締め付けられるようにした。鉾山の社長、木原吉之



日立市立多賀図書館

柴田和子

まちづくり精神伝える

助は、地域住民との共存共栄を目指し社運を懸けて、高き156層の大煙突を造



「ある町の高い煙突」
新田次郎著

造つとす愛国的実業家。精神に敬服するとともに、大煙突が煙を高く吐き出したときには、喜びと安堵でほっとしました。

三郎が結婚するとき、会社の代表として淳平は「あなたと私は10年前、お互いに誠意を持って煙害の問題に尽力しよう」と誓いを合。今、見事にその結実をみた。会社からの結婚祝いとして、入四間村へ杉苗16万本を贈ります」と、目録を持参します。これこそが、この本が伝えたい現代にも通じる企業と市民とが通じるまちづくりの精神ではないかと思えます。

日立市立多賀図書館には、子ども図書室やおはなし広場「ふかわわ」、そして、子育て支援コーナーがあります。おはなし会やピリオドバトル、ブックパーティー等も行っています。

(今回は9日付、ゆうき図書館担当です)



絵本店「クレヨンハウス」を主宰する作家、落合恵子氏は、出演するフジテレビの冒頭、「1冊の絵本を開くとき、あなたのもう一つの旅が始まります。絵本は生まれて初めて本というものに合う最も小さなから年齢制限なし。深く豊かなメディア」であると述べています。(落合恵子の絵本の時間)



ゆうき図書館

長谷川拓哉

日々の喜びを感じたい

1冊ご紹介いたします。一日の始まりの朝、懐き



「あさになったのでまどをあけますよ」
荒井良二著

まはどのようにお迎えでしょうか。この絵本では、山間地、町場、河口近くのそれぞれの風景が描かれています。日本大震災後、東北地方の沿岸部の町を巡り、この絵本を描き上げたようです。

なるほど、何げない日々の所作一つ一つの尊さ、生きる喜びを表したかったのかもかもしれません。

また、この絵本に描かれる風景は茨城県土の風景を一枚一枚かたどっているようにも感じます。県北には

ゆうき図書館は、どなたでも利用者登録ができません。また、ワークショップ等の参加型イベントを開催しておりますので、ぜひご利用ください。

(今回は16日付、取手市立取手図書館担当です)



テキサス州東部、サビー
ン川上流の森に、身もつ
たネコが捨てられました。
行き場のないネコは、もの
悲しいブルースを歌う老犬
と出会います。

その犬は凶暴な人間に飼
われ、一日中鎖につながれ
た生活を送っていました。
寄り添うように生活を共に
するようになったネコと
犬。ネコはやがて双子の子
ネコを産みます。

この森の近くには樹齢千
年のデグマツが立ってい
ます。その根元には、かめ



取手市立取手図書館

間中恵美さん

互いを思い苦難を克服

の中に又ママムシの姿が閉
じ込められています。彼女
はラムアと呼ばれる魔性の
女がいました。



「千年の森をこえて」
キャシー・アッペルト著
片岡しのぶ訳

双子の子ネコと老犬が、
お互いを思いながら過酷な
状況を乗り越えていく様子
が、アメリカ先住民の伝
説を織り交ぜつつ描かれて
います。

物語の時間軸は、現在か
ら25年前の過去、そして千
年の大昔へと度々も行き交
い、それぞれの物語が交錯
しながら進んでいきます。

3匹を待ち受ける苦難は
痛ましいほどですが、時に、
森の木々さえ味方してく
れ、その読後感ほ心温まる
内容です。本作は2009
年ニューベリー賞銀賞を受
賞しています。(あすなろ
書房、1944円)

取手市では、昨年10月よ
り、学校図書館一市立図書
館連携事業(ほんくろ)を
開始しました。学校と図書
館を電算システムで結び、
学校司書の全校配置、学校
と図書館を巡回する物流シ
ステムの仕組みにより、児
童生徒は学校や家庭から市
立図書館の本を予約し、学
校で受け取ることができま
す。これをきっかけに市立
図書館に来館する子どもも
ちも増えており、子ども読
書活動推進の原動力となっ
ています。(次回は23日、
ひたちなか市立那珂湊図書
館担当です)



明治の文芸者・樋口一葉
の師として知られる歌人中
島歌子を主人公とした物語
で、第150回直木賞受賞
作品。水戸藩を舞台に幕末
動乱期に生きた人々がドラ
マチックに描かれており、
歴史小説は苦手という方に
もお薦めの1冊です。

徳川の世が変革の渦中に
のみ込まれようとする時
代、江戸の商家の娘登世
(中島歌子)は、恋い慕っ
水戸藩士林忠左衛門(徳の
もとへ嫁ぎました。登世は、
厳格な小姑や武家のしきた



ひたちなか市立那珂湊図書館

黒沢晶子さん

郷土の先人たちの物語

りに戸惑いながらも、持ち
前の気丈で明るい性格で水
戸にあつて林家を守ってい
しも天狗党と諸生党の確執



「恋歌(れんか)」
朝井まかて著

が激しさを増す中、元治元
年に天狗党が筑波山で挙兵
します。天狗党が幕府に追
われ京都へと逃避行にでる
と、天狗党藩士の妻子らは
次々と囚われていきます。
夫が天狗党の志士であった
登世も投獄され、過酷な運
命をたどります。

獄中で人を人と思わぬ境
に置かれながらも、気高
く生きようとする登世や武
家の妻子たちのような、名
もなき人々について、描い
ています。

読書の秋、幕末の裏の歴
史とも言える天狗党の乱を
テーマにしたこの作品を通
して、郷土英城の先人たち
に思いをさせてみてはいか
がでしょうか。

(講談社、778円)

那珂湊図書館は、天狗党
の乱ゆかりの地、那珂湊に
あり、今年で開館40周年を
迎えます。10月13日には、
「地元について君はどう語
るか？」をテーマに小田部
卓茨城新聞社長をお招きし
記念講演会を行います。

第2部として、那珂湊高
校や那珂湊野外劇実行委員
会の皆さんにご参加いただ
きまして、まちの活性化に
ついて考えたいと思いま
す。(次回は30日付、日立
市立十王図書館担当です)



振り返ると、その時々
心に残っている本がありま
す。10代ころ、安部公房の
作品(「箱男」「壁」「他
人の顔」など)を読んでは
いました。精神世界を書いた
もので当たり前に「ある」
ものの存在について、深く
思い巡らせ、読み進めるう
ちに思考が深まる、その感
覚や時間を気に入っていました。

「砂の女」安部公房著は、
仕事に就いたばかりの頃に
「その著者ならこの本」と
職場の先輩に薦められた本



日立市立十王図書館

齋藤恵久子さん

思考深まる感覚に魅了

男が一人、休暇を利用し
て汽車で半日ばかりの海岸
に出掛けたきり、消息を絶
ててしまいます。男の目的
は砂地にすむ昆虫採集で、



「砂の女」
安部公房著

新種発見をし、永く人々の
記憶の中にとどまることで
した。ところが、砂穴の底
に埋もれていく、軒先に閉
じ込められ、そこから脱出
しようとしても、家を守る
ため引き止めておこうと
する女や穴の上から監視し
ている人々に妨害され、失
敗してしまいます。男が昆
虫にタフって見えてきた
り、男が存在すべきところ
について、考えさせられま
す。(新潮社、562円)

私の最初の配属は地域の
図書館でした。今は資料も
増え、ニーズも多様化し、
情報もあふれています。赤
ちゃんから高齢者まで、本
とのいい出会いがあります
ようにと願う時、ふとあの
時の、本と深く思考した感
覚と職場のみんなが向いて
いた先にあつた利用者の
「ありがとう」が、道しるべ
のように浮かんできます。

日立市立十王図書館は、
JR常磐線十王駅西側にあ
ります。季節ごとの本の展
示や貸し出しをしています。
幼児向けや赤ちゃん向け
のおはなし会なども開催
しています。日立市立図書
館では、どなたでも登録書
本を借りることができま
す。(次回は10月7日、下
妻市立図書館担当です)



今日ご紹介するのは1冊の絵本。物語はフランスのパリを舞台に始まります。お気に入りの植物園がばらばらになってしまったソフィー。本のおいしさを探してパリの街を歩きます。本屋さんには新しい植物園がいくつかあったけれど、ソフィーがなおしたいのはお気に入りのこの1冊。そんな彼女が窓辺に何冊の本が並べられた、1軒のお店を見つけます。そこで出会ったのは……。フランスの伝統的な製本

筑波大学付属図書館



石津朋之

手仕事でつなぐ本の記憶

職人「ルリユール」の手仕事としての本に向けられる事を丹念に取材した画家に、愛着を真摯にくみ取るおじいさんの絵本は、「もの」さんの姿を通して、私たちが

「ルリユールおじいさん」
いせひでこ作



と本との関係を思い出させてくれます。ソフィーにとっての植物園のように、ぼろぼろになるまで読み込んだ本は私たち一人一人の宝物として、本棚や記憶の片隅でもう一度開かれる時を待っていることでしょうか。

(講談社、1728円)

私の勤める筑波大学の図書館では明治・大正期の比較的古い本でも書庫などにしまわずに、学生が手に取って読めるようにしています。何十年の間、学生

たちの学びの道しるべとして活躍してきた本たちは、ぼろぼろになりながらも市民ボランティアの手によってその都度修復を受けながら時代を超えて、学問研究を支え続けています。卒業生に限らず一般市民の皆さまにも、簡単な手続きで入館の上、これらの資料を手にとってご覧いただくことができます。有料ではありませんが、貸出利用証も発行しています。

10月29日から11月30日には「明治150年」を記念する特別展「クローバルに挑む群像―幕末から明治へ―」を筑波大学で開催します。貴重な資料も多数ご覧いただけます。



本との出会いはさまざまです。人からの薦めや、自分でふと手に取ったものだったことなどがあります。友人から薦められたJ・R・R・トルキンの「ホビットの冒険」に始まる「指輪物語」は、今では人に一度は読んでおくべきとお薦めしています。

日立市立南部図書館



岡部成美

戒めや指針となる言葉

王子さまとのふれあい、内容です。一つ一つの本の言葉を通して、人間の本当の言葉がこれから大人になる自分への戒めや指針の

「愛蔵版 星の王子さま」
サン＝テグジュペリ作
内藤濯訳



ように思えた本でした。特に私の心を捉えたのは「おとなは、だれも、はじめは子どもだった(しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくつもない)」と、キツネが語った「心で見なくちゃ、ものことはよく見えないってこと。かんじんなことは、目に見えないんだよ」という言葉です。当時の私は、そんな大人には絶対にならないと強く思っていました。時々読み返していますが、その度に「これは人間関係でも大切なことだと感じるなど、

新たな気づきを与えてくれる本でもあります。(岩波書店、1080円)

よい本と言われる本は、何度読んでも新たな発見があると言われる。本と出会う場として図書館に足を運ぶべきだ。

日立市立南部図書館は、2013年4月、日立電鉄久慈浜駅の跡地にオープンし、「南部子ども広場」を開催するなど子育てに優しい図書館です。「南部図書館サポーターズくらぶ」を中心に市民や地域に密着した市民参画による図書館づくりの活動を展開しています。(次回は18日付、常総市立図書館担当)



読書という行為は、基本的にプライベートなものかと思われがち。一人旅に似たような。しかし、旅先で良い風景に出会うと誰かに伝えたい。その旅情で、読書についても同様、普段「何をどう読む」と自由だ。などどうも書いていても、気に入った本に出会うと友人と話題にしてみたい。今回のお薦めの1冊は、私にとってそのような本である「新史太閤記」を紹介いたします。司馬遼太郎の歴史小説の

常総市立図書館



間中辰弥

史実は置いて楽しんで

魅力は、史料を渉猟して書き織り込まれるフィクションかれています。そのうまみ、リアリティと、巧みにさのせい、本人は「私は

「新史太閤記」
司馬遼太郎著



小説家であり(中略)歴史家の光栄は背負っていない(「司馬遼太郎が考えたこと」から引用)と語られているのですが、没後20年以上を経た現在でも、いわゆる「司馬史観」に多くの人が関心を寄せます。さて、長々と司馬遼太郎作品の総論めいたことを書いてしまいましたが、お薦めの「新史太閤記」。豊臣秀吉の立身出世物語です。冒頭で登場する高野聖はフィクションながら、この時代の現実主義を象徴しているように、読者を作中の

世界へと誘います。それを伏線として、気難しい信長、理ぶりを生きた人間たちが満載です。

それぞれに司馬さんの愛情の目が注がれているようですが、大阪人のヒーローとも言える主人公の秀吉には、終始スポットライトが当てられ、物語は大団円を迎えます。史実はひとまず脇に置き、楽しんでみてはいかがでしょう。

(新潮社、上巻790円)

水害から3年たちました。復活した常総市立図書館に、ぜひ、ご来館ください。(次回は25日付、牛久市立中央図書館担当です)



あなたも私も780日間いた場所はどこでしょう。大人も子どもも、男も女も日本人も外国人もいた場所—それは、お母さんのおなかです。

私がお薦める1冊は、マタニティー&ベビー専門のフォトスタジオで撮影した妊婦さんの写真と共に親から子への愛をつづったフォトエッセイです。妊婦さんのおなかをモノクロ撮影しており、写真集としてもとても美しい本です。私とこの本の出会いは、



牛久市立中央図書館

星野美紀さん

親から子へ愛をつづる

子どもと読書の研修会に参加しました。ある幼稚園加した際、講師の方がエピソードと一緒に紹介してく「命」に関する本の読み聞



「きみのいたばしよ」
写真・スタジオネーブル
文・池田伸 絵・コヨセジュンジ

かせをしており、この本が読まれたとのこと。この本の内容は、幼児には難しいかもしれませんが、子どもたちはじっと耳を澄ませ、胸に手を当てて聞いている子もいたというのです。
「元気でうまれてくれれば、ほかにはなにものぞましい」「きみは愛されたから生きていく」。あなたの全てを無条件に愛しているというストレートな愛情表現が、読んだ人の心に響くのではないのでしょうか。また、子育て真っ最中の

お母さん、この本を読んで赤ちゃんがおなかにいたころを思い出してみてください。きょうと心が温かくなり、子どもが一層とおしく思えるようになるのではないのでしょうか。
(サンクチュアリ出版、1296円)

牛久市立中央図書館では、0・1・2歳児対象のおはなし会やわらべ歌の会など、赤ちゃんから参加できるイベントがたくさんあります。☆図書館PR動画を <https://www.youtube.com/user/ushikino> で公開中。(次回12月2日付、筑波技術大学付属図書館担当です)



この本ことは雑誌の書評で知りました。時期が悪かったのか本屋で見つけられなかったり、チェックし忘れたり、購入するまで時間がかかりました。本は実物を手に取って確かめてから購入する派です。

この物語はとにかく長い。単行本上下2冊で約1500ページ。文庫本だと4冊で約1800ページ。それでも読み切れたのは面白いから。登場人物の設定含めて話がよくてできています。長い物語を読むのが苦にならない



筑波技術大学付属図書館

阿部高さん

長い物語、続編も楽しみ

ない人やまとまった時間がないときにお薦めです。実写映画やアニメにしても、誰が描くにしても、



「図書館の魔女」
高田大介著

こんなのはマツリカじゃないと言われるのは避けられないでしょう。ただ、独特の世界観が受け入れられない人もいます。から読み始めてもいいかもしれません。これだけ長くても話は終わっていません。敵のラスボスとの最終決戦がまだです。他の続編が予告されていますが、出版はいつになるやら。それを待つのも楽しみではあります。また、本のレビューでキリヒトが森博嗣のワイド

・シェイパシリーズのゼンに似ているというのがありました。それがきっかけでワイド・シェイパシリーズを讀破することにになりました。こういったお薦めの楽しさの一つです。
(講談社文庫0734円)



一足早く、クリスマス読み聞かせにお薦めの絵本を紹介しします。

クリスマスイブの夜、プレゼントを配り終えて帰ってきたサンタクロースは、その中にプレゼントが一つ残っているのに気が付き、それは遠くへのロリー・ポー山の上に住む、貧しい少年ハービー・スラムハンバーガーの分でした。トナカイたちはくたくたでもうそりを引かせるわけにはいきません。サンタクロースは、一人でプレゼント



東海村立図書館

照沼泉さん

サンタと人々との協力

を届けに出発します。道中出会った人々の協力を得ながら、果たしてサンタクロースは、



「クリスマスの おくりもの」
ジョン・バーニンガム作・長田弘訳

「絶対届ける！」というサンタクロースの強い信念と、夜中の突然の「もうしわけないが」に快く応じ、自分が行けなくなっても「もうダメです。サンタクロースさん。(中略) かがてつづってこれれば、だいじょうぶ、クリスマスにはきつとまにあいます」と次々に連携プレーでサンタクロースを助ける人々。手に汗握る展開が続き、聞いている子どもたちも、思わず「頑張れ！」と応援したくなります。最後にサンタクロースはちゃんとお家

に帰りますが、どうやって帰ったかもお楽しみ下さい。(ほるぷ出版、1944円)

東海村立図書館は、県内に残る数少ない「村」の図書館です。ここ数年は、子育て支援、子どもの読書推進に力を入れています。小さい行政ならではの横のつながりを生かし、学校や幼稚園・保育所・こども園などと手を取り合い、村内の全ての子どもたちが読書で輝く村を目指しています。小さいお子さま連れでも気軽になく来館できる「あかちゃんタイム」を月に2回(第1・第3木曜)あります。(次回は16日付、常陸太田市立図書館)



常陸太田市は、平安時代末は佐竹氏の本拠地として、江戸時代には徳川光圀公が晩年を過ごした国指定の名勝である西山御殿(西山荘)に代表されるように水戸藩領地として、明治時代には棚倉街道の商業中心都市として繁栄しました。地域の歴史に関心を持つ方は多く、2005(平成17)年秋の青蓮寺(現常陸太田市東連地町)での書簡発見は、熱心な調査研究の結果でした。

おおよそ200年前の江戸

常陸太田市立図書館



赤津みゆき

親孝行の実話物語風に

時代、豊後国臼杵(現大分県臼杵市)から来た姉妹つゆめと「とき」の親孝行物語。人は、親鸞聖人の遺跡巡拝



「実話 病父を尋ねて三千里 豊後国の二孝女物語」 橋本留美著

の旅の途中で病気になる青蓮寺で世話になっていた父初衛門を尋ねて、約3000里(約1200km)もの旅をしながら常陸太田にきました。さまざまな苦難を乗り越え、親孝行の心を打たれた地元住民や水戸・臼杵両藩の人々からさまざまな支援を受け、翌春無事に親子3人で帰郷できたという話です。

二孝女物語の調査に取り組んでいた「豊後国の二孝女研究会」は調査内容をまとめて、「豊後国の二孝女」を出版しました。「病父を

尋ねて三千里」は、常陸太田市出身で翻訳者でもある著者が「二孝女物語」を誰もが読みやすい物語風にしています。(星雲社、1620円)

◇ 常陸太田市立図書館では「子育て上手常陸太田」としての子育て支援(あかちやんタイム、ブックスタート等)やボランティアの方々の協力を得て、各種事業を実施しています。

また、姉妹都市・友好都市を身近に感じていたというように秋田市・牛久市・臼杵市・秋田県仙北市の広報紙の展示を始めました。(今回は23日付、坂東市立岩井図書館担当)



漱石を知っていますかという質問に、どんな答えをしますか。おそらく、皆さんは知っているかと答えていると思います。漱石の作品はどのくらいか尋ねられても、いくつかの小説の題名が頭に浮かんでくるのではないのでしょうか。では、読んでみるのがありませんかと問われるでしょうか。

お薦めしたい本は「吾輩は猫である」です。冒頭の「吾輩は猫である。名前はまだない」の書き出しはあまりにも有名ですが、その

坂東市立岩井図書館



古矢千晴

明治の暮らし情景映る

先に起る猫の飼いで、見ている猫の心情の変化、る苦沙弥先生と多数の登場人物とのやりとりやそれを



「吾輩は猫である」 夏目漱石著

私がお薦めするのは、昨今、漱石のアン드로이드が作られたと聞き、もう一度、読んでみようと思ったことでした。眼を見つけて少しすつ積読し、完読するまでにほぼ3週間を費やしましたが、不思議とあっと言う間という感覚でした。明治時代の人間の暮らしの情景が映り、平成の時代のそれとの違いを感じることができたからかもしれません。

そして、平成の猫たちの目には、私たちの人間の暮

らしがどんなふうに映っているのか。また、自分を吾輩と呼ぶ猫のように人間の振る舞いをまねてみようと思っているか、平成の漱石のアン드로이드に聞いてみたくなったからです。皆さんも明治の文豪の世界を覗き返してはいかがでしょう。(偕成社文庫①②、各972円)

◇ 坂東市立岩井図書館は毎週水曜日午前11時から乳幼児向け「おひさの上のおはなし会」、毎週土曜日午前11時から(各休館日を除く)小学生まで楽しめる「おはなし会」を開催しています。(今回は1月13日付、つくば市立中央図書館担当)



最近で一番のお気に入りのお絵本を紹介したいと思います。全米で数々のベストブックに選ばれていること、かわいらしい表紙に引かれて読んでみました。

絵本版「そして父になる」と言ってしまうと、結果が予想できると思いますが、表紙からは想像できない内容の絵本です。

フィッパイ、フッフ、ウツララー、ガストンはブードル家族のきょうだいですが、ガストンだけが大きく、鳴き声や歩き方も違

つくば市立中央図書館



川田美紀

「家族」とは何か考える

います。ある日、ブードル家族が公園に出掛けると、ブルド



「ガストン」 文/ケリー・ディブツチオ 絵/クリスチャン・ロビンソン

ブルド、アントワネットという4匹ですが、アントワネットだけほかのきょうだいと違って、お母さんたちは、ガストンとアントワネットを交換して家に帰りますが、ガストンとアントワネットを交換することで、見た感じがぴったりになりましたが、どうにもしっくりきません。

難しいテーマですが、テキストのいい文章とかわいいた絵のおかげで、ほのぼのとした気持ちで読むことができます。「家族」というものが、「血のつながり」だ

けではなく、育ってきた環境が大切なのだということ、「家族の絆」や「自分らしさ」について考えることができるとも思っています。絵本です。アントワネットが主人公の絵本「アントワネット」と合わせてお薦めします。(講談社、1728円)

◇ つくば市立中央図書館はつくば駅に近く、緑豊かな中央公園の隣に位置しています。こどもコーナーはペダストリアンデッキに面し、外の景色を見ることが出来ます。窓際には季節の絵本を展示しています。(今回は20日付、常陸史料館史料アドバイザー担当)



皆さんは幼いころ、こんなことを思い描いたことはありますか。ある日突然、人間をそのまま小さくした姿の、いわゆる「小人」が自分の目の前にひょっこり現れて友達になったとしたら、とてもワクワクした楽しい毎日になるのではないかしら、と。

この物語は主人公の香ちゃん、実際に小人と出会い交流を深めたノンフィクション物語です。小学4年生で一人っ子の香ちゃんは、毎日お母さんに本を讀



守谷中央図書館

青木明子さん

小人と交流する女の子

んでもらうのが日課です。アリー・ノートンの「床下その日は、昨今人気のアニメの小人たち」を讀んでもらった。昨日夢中にメ映画の原作でもある、メ



「ここにいつもいるよ いつもいるよ」
ミーシャ・ナンナ物語
中島信子 櫻井香著

なっていて、こんな事を思いつきました。「もしかししたら、本当に借りぐらしの小人さんはいらんじやないかしら」「小人さんにあいたい。手紙をかいてみよう」と。それを聞いて、内心困ったことになったものだな、と思ったお母さんでしたが、香ちゃんはそんなお母さんの気持ちを知らない。香ちゃんに「わたしは香ちゃんにちほ。わたしは香ちゃんにちほ。わたしは香ちゃんにちほ」といいます。もし、借りぐらしの小人さんがうちにいましたら、おへんじください」と、小さく切った折り紙に小さい文字で手紙を書

の想像力に限界はない、そんなすてきな夢が詰まった一冊です。
◇ (福音館書店、972円)
守谷中央図書館では、市民1人当たり年間500円の図書資料費が設けられており、児童書から一般書まで充実した資料を取りそろえています。(次回は17日付、美浦村中央公民館担当)



もしも、髪をとても長く伸ばすことができたなら、それを使って何ができるでしょうか。今の季節でしたら、首に巻くヘアブローの代わりに使えそうですね。花を編み込めば、さながらきれいなお花畑のように見えます。あるいは、もっとすてきなことができるかもしれません。

今回私が紹介する絵本には、すてきな使い方がたくさん描かれています。髪の毛の長いあちゃんとみいちゃんが、短いおかつぱ



美浦村中央公民館図書室

坪井優美さん

子どもの想像力は無限

の「まあちゃんに、髪を2人の夢よりもっと長くもって伸ばす夢を語りま

「まあちゃんのながいかみ」
たかどのほうこ著



お下げにした髪をおろして、魚が釣れるくらいに長さまで！
しかし、それだけ伸ばすといろいろ大変なこともあるでしょう。ご安心ください、まあちゃんの問題を解決する方法もすっかり考えてあるのです。
「現実」の場面で、まあちゃんたちは薄いきりクリーム色にモノクローム調で描かれている一方で、まあちゃんの語る「夢」の場面は真っ白な背景に色鮮やかな世界で、さまざま「もしも」を見せてくれます。(こども

の想像力に限界はない、そんなすてきな夢が詰まった一冊です。
◇ (福音館書店、972円)
美浦村中央公民館図書室では、毎月第3土曜日の午前11時にお話人会を開催しています。二つの読書団体が交代で携われており、どなたでも自由に参加できます。図書室の中は通路を大きく設けており、ベビーカーでも奥まで入ることができます。
また、村内にあるJRA美浦トレーニングセンターにちなみ、馬にまつわる本も各種幅広く収集しています。(次回は24日付、神栖市立中央図書館担当)



図書館で働くようになって本の多さに圧倒されることがあります。そんなときブックガイドは、便利です。膨大な数の本を前に、立ち向かえる道具です。今回紹介する本も、ブックガイドに載っていた本です。アメリカのYA(ヤングアダルト)若い大人、10代を表す図書館の言葉、小説、「さよなら、シリアルキラー」。

主人公は、21世紀最悪の連続殺人犯の息子で、殺人の英才教育を受けてきた17



神栖市立中央図書館

青木ひろみさん

揺れる若者に寄り添う

歳の高校生。父親とは違うと苦悩し、親友と恋人を大切にします。けれども、自



「さよなら、シリアルキラー」
バリー・ライガ著
満園真木訳

分にも狂気が目覚めるので、はなれないかと恐れています。自まがまがしい描写も出てき

ます。そんな話ですが、若い人にお薦めします。訳者あとがきにあります。若者の不安定な心に寄り添い、葛藤や成長を温かく見守る青春小説です。3部作で、スピンオフ作品もあります。
誰にでも、心に響く言葉が必要です。それが、神栖市立中央図書館で手に取った本の中にあつたならば、これに勝る喜びはありません。
(東京創元社、1296円)
◇ 神栖市立中央図書館では、毎月ティーンズ通信を発行し、中高生世代向けに情報発信をしています。また、工事のため長らく休館していた当館では、エントランスホールの一隅をティーンズのための展示スペースにしています。
23日から市内中学校・高等学校の生徒さんによる「ティーンズによる作品展」を開いています。3月2日は絵本作家・長谷川義史さんの講演会。3月17日は「本のリサイクル」を行います。詳しい情報は神栖市立図書館公式ホームページ、またはお電話にてお問い合わせください。
(次回は3月3日付、泉立図書館担当)